

報告第5号

所管事務調査報告

令和2年12月10日

洞爺湖町議会議長 大西 智 様

経済常任委員会
委員長 下道 英明

本委員会は、所管事務調査のため、次のとおり委員会を開催したので、その結果を報告します。

記

○所管事務調査その1

- 1 調査事項 洞爺湖森林博物館新築工事の進捗状況について
- 2 調査日 令和2年10月7日（水）
- 3 出席委員 下道委員長、千葉副委員長、篠原委員、大屋委員、立野委員、板垣委員、
- 4 説明員等 若木経済部長 観光振興 田仁課長、鈴木専門官
- 5 調査結果

本年度整備される森林博物館は、木造平屋建て面積407.32㎡で、洞爺湖の自然環境などを紹介する展示スペースとカフェレストランを備えた建物となっている。展示スペースは、ジオパーク情報ゾーン、洞爺湖と中島の自然ゾーン、中島散策情報ゾーンの3つのテーマでゾーン分けされ、自然溢れる町の魅力を発信するものとなっている。

工事は9月末から着工されており、現在は建物の基礎工事が行われている状況であった。建設現場が、洞爺湖の中島ということもあり、資材や重機、作業員など建設に必要な全てのを船で運搬しなければならず、時間や労力も通常より必要であるとの説明を受けた。

委員からは、工事を施工して行くうえで、現場周辺の清掃管理や、工事内容を説明する看板の設置など、中島を訪れる観光客に対する配慮が必要であるとの意見が出されていた。

○所管事務調査その2

- 1 調査事項 洞爺湖温泉大通り線改良工事の進捗状況について
- 2 調査日 令和2年10月7日(水)、11月20日(金)
- 3 出席委員 下道委員長、千葉副委員長、篠原委員、大屋委員、立野委員、板垣委員
- 4 説明員等 若木経済部長、建設課 一戸主任
上下水道課 篠原課長
- 5 調査結果

道路工事に併せて水道の配水管の工事も行われており、担当課から説明があった。水道の配水管布設工事は、現在の進捗率が50%で工期が令和2年12月11日まで、道路の改良工事は、現在の進捗率が20%程度で工期が令和3年1月12日までとなっている。

水道の配水管布設工事の着手終了区間から道路改良工事を随時進めていることや、温泉配水管や電線などの埋設物が多く作業に時間を要していることから、道路工事の進捗率が低い概ね順調に実施されている。

観光関連の建物が立ち並ぶ主要な道路であることから、観光客や地域住民及び隣接するホテル・店舗に充分配慮しながら、安心安全な工事の実施に努めていただきたい。

○所管事務調査その3

- 1 調査事項 NPO法人洞爺まちづくり観光協会の現況と課題について
- 2 調査日 令和2年11月13日(金)、11月30日(月)
- 3 出席委員 下道委員長、千葉副委員長、篠原委員、大屋委員、立野委員、板垣委員
- 4 説明員等 京谷会長、納谷副会長、田所事務局長、吉川事務局長
庶務課 兼村課長 汐後主査
- 5 調査結果

NPO法人洞爺まちづくり観光協会の会員は、団体正会員5名、正会員73名の計78名となっている。本年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響や、湖畔キャンプ場の利用を休止としたことなどから、とうや水の駅の利用者も減少したが、マリンキャンプ、水上オートバイの来訪者は昨年度より増加した。湖畔キャンプ場の休止などの影響により、当協会における本年度の収入は大きく減少する見込みとなっている。

また、近年は洞爺湖にて水上レジャーを楽しむために訪れる利用者のマナーの低下が問題となっており、洞爺湖適正利用協議会にて一定のルール作りを検討しているところである。湖畔キャンプ場においては、利用者による騒

音やマナー違反などにより地域住民からの苦情も多く寄せられており、今後のあり方や存続について協議検討をしているところであるが、閉鎖となった場合には解決しなければならない事項もあることから、町の支援協力が必要となる。

当委員会としては、湖畔キャンプ場を閉鎖することなどについては、町において各関係団体などと慎重に協議を進め拙速な判断をしないよう求める。

○所管事務調査その4

- 1 調査事項 JAとうや湖の現況と課題について
- 2 調査日 令和2年11月13日(金)
- 3 出席委員 下道委員長、千葉副委員長、篠原委員、大屋委員、立野委員、板垣委員
- 4 説明員等 高井組合長、大内参事、橋堀営農販売部長、遠藤農業振興課長、齋藤青果指導販売課長
農業振興課 片岸課長 山本主任
- 5 調査結果

令和元年のJAとうや湖の全体販売高における洞爺湖町の販売高は、青果指導販売課で約14億1,170万円(72.7%)、農産指導販売課で約4億3,635万円(69.7%)、畜産指導販売課で約3億7,821万円(10.6%)となっており、全体で22億2,626万円であった。

令和2年における農作物の生育及び収穫状況については、じゃがいもは前年並み、根菜類は一部で前年より収量が減少となるものもあるが、長芋は好調となっている。水稻は天候に恵まれ順調に生育し増収、豆類は平年並みとなっている。畜産に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により牛肉の単価は下落したが、豚肉は輸入品の減少により国産が増加、生乳生産量も昨年度より増加となっている。

クリーン農業については、多くの農家が生産物の安全安心な提供に取り組んでおり、第三者認証(YES!クリーン認証農家277戸、エコファーマー認定者数53名)を取得している。

また、JAとうや湖は令和2年から令和6年までを期間とした「農業振興・経営中期5カ年計画」を策定しており、農作業の省力化・効率化を目指したスマート農業(ロボット技術やICTの活用)の導入普及を推進し、高齢化や労働力不足といった課題に対応する取り組みを実施している。

スマート農業推進の取り組みに当たっては、町の協力が重要なものとなっており、今後も引き続き支援が求められている。

○所管事務調査その5

- 1 調査事項 一般社団法人洞爺湖温泉観光協会の現況と課題について
- 2 調査日 令和2年11月20日（金）
- 3 出席委員 下道委員長、千葉副委員長、篠原委員、大屋委員、立野委員、板垣委員
- 4 説明員等 大西会長、高橋副会長、越後副会長、大楽事務局長
若木経済部長、観光振興課 田仁課長
- 5 調査結果

洞爺湖温泉の観光客入込数は、国内外の観光需要が高まり回復基調にあったほか、プロモーション事業やイベント事業などの積極的な取組みにより、平成29年度は約73万人、平成30年度は北海道胆振東部地震の影響により落ち込んだものの宿泊者数は71万4千人、令和元年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響などにより宿泊客が減少し62万7千人であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う国や道による緊急事態宣言や、感染拡大防止による外出自粛などにより、町の多くの観光施設が休業・休館の措置を取った。種々の経済対策により8月・9月の入込は前年比50%まで回復を見せているが、インバウンド観光の見通しがつかず、冬期は閑散期となることから、入込数は統計を開始した昭和50年度以降で最も低いものとなることが予想されている。また、洞爺湖温泉の修学旅行は、平成18年度以前は4万人前後であったが、年々減少している状況であり、本年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度と比較して20～30%ほど減少する見込みとなっている。

観光協会においては、**With** コロナ・アフターコロナ期に向けた事業を進めており、旅行者及び従業員の安心・安全の確保、関係団体と連携した地域経済の活性化に向けた事業の展開、観光の窓口となる場での感染予防対策などを推進するとともに、種々のツールを利用した町の情報発信を強化し誘客促進に繋げるなどの取り組みも進めている。

観光事業者においては、大変厳しい状況下にあるなか様々な事業を計画推進し、課題解決に向け積極的な活動を進めている。